

学生のアイデア具現化に向け伴走支援 ～コンテンツ人材育成プログラム「京都チャレンジプロジェクト」提案募集～

- 京都府では、太秦メディアパーク構想※の実現に向け、コンテンツを起点とした新たな価値創出に挑戦する若手クリエイターの発掘と育成を目的とした人材育成プログラム「京都チャレンジプロジェクト」を実施します。
- 挑戦的なアイデアを持つ学生からの提案を募集しますので、周知をお願いします。

※京都・太秦地域を核として、映画・映像、アニメ、ゲーム等のコンテンツ産業と、DX・ICT技術、観光、教育、医療、ものづくり等の異分野との融合を促進し、新たな価値や産業の創出を目指す京都府の取組。

1 事業概要

- 若手クリエイターを発掘・育成し、コンテンツを起点とした新たな価値創出やサービス・プロダクトの創出につなげることを目指す実践型プログラム。
- 採択者はビジネスの第一線で活躍するプロジェクトマネージャーの伴走支援を受けながら、アイデア創出、プロトタイプ開発までを一貫して取り組む。
- 採択者には、活動費（最大40万円）の支給に加え、採択者同士や産学公関係者との交流機会を提供。

2 募集概要

（1）募集期間

令和8年8月3日（月）から9月10日（木）まで

（2）対象者

京都府、大阪府、兵庫県、滋賀県、奈良県又は和歌山県に所在する大学・大学院・高等専門学校・専門学校に在籍する学生

※2026年4月1日時点で18歳以上の者に限る

（3）募集内容

太秦メディアパーク構想に資するものとして、コンテンツを起点に先端技術や異分野との融合による新たな価値創出につながるプロジェクトを募集。

（4）採択件数

3件程度

（5）応募方法

事業HP内の一次受付フォームに基本情報を入力。その後、応募申請書や提出方法等を事務局から案内。

事業HP：<https://bunken-lab.com/kyoto-challenge-2026/>

<参考>

○プロジェクトマネージャー（プロフィールはリーフレット参照）

- ・ 古屋 俊和 氏（株式会社テラバース 代表取締役 CEO）
- ・ 吉田 達也 氏（NTT 西日本株式会社）

【本報道発表に関するお問合せ】

商工労働観光部産業振興課 課長 森本 TEL 075-414-4846
主幹兼係長 高橋 TEL 075-414-4852



まだ、かたちのない 想いを。

京都で、つくってみる半年間。

「なんとなく、こういうものがあつたらいいのに」。いまはその程度で構いません。
京都で活動する二人のプロジェクトマネージャーと、同じ時期に走る仲間と一緒に、
その想いをかたちにしていきます。

About このプログラムについて

京都府が主催する学生向けのプログラムです。ソフトウェア・アプリケーション・画像・映像・アニメ・ゲーム・VR/AR・AI・プログラミングなど、「つくる」ことに挑戦したい**関西の学生**を募集します。採択された方は、ビジネスの第一線で活躍する**2名のプロジェクトマネージャー**の伴走のもと、10月から3月までの約半年をかけて、自分のアイデアを**実際に動くプロトタイプ**へと形にしていきます。完成されたビジネスプランは必要ありません。まだ言葉にならない「こうなつたらいいのに」から始められます。まずは、エントリーいただき、そしてあなたが開発したいプロジェクトのアイデアを応募してください。

Apply 主な応募要件

応募できる方

関西6府県（京都・大阪・兵庫・滋賀・奈良・和歌山）の大学・大学院・高専・専門学校に在籍中の方（2026年4月1日時点で18歳以上）。期間中、6府県のいずれかに在住または通学していること。

応募の単位・併願

個人、または3名以内のチーム。1名につき1提案まで。他の類似プログラムに応募中の場合は申請書に明記（応募時点で類似プログラムに採択済みの場合は応募できません）。

締切・採択

2026年9月10日（木）17時／採択3件程度。

Entry 応募の方法

まずは、
WEBサイトから
エントリー。



- 1 WEBフォームで、所属・氏名・メールアドレスを送る（約1分）
- 2 事務局から、応募書類と提出先の案内が届く
- 3 応募申請書と学生証のコピーを提出

この時点で応募が確定するわけではありません。
まずは気軽に。

※詳細は、WEBエントリー後に届く募集要領を確認してください。

Support 用意しているもの

0円

参加費・AI利用料

参加費は無料。期間中のClaude Code使用料と参加必須プログラムの交通費は事務局が負担します。

40万円

活動支援費（税込）

ソフトウェア利用料、クラウドサービス利用料、開発用機材・部品の購入費、試作品製作費などに使えます。

2名

PMの伴走

ビジネスの第一線で活躍する二人が、プロジェクトマネージャーとして、あなたのプロトタイプ開発を支援します。

Program 応募から最終報告までの流れ

- 2026年9月10日（木）17時 応募締切
- 9月下旬 採択者決定（3件程度）
- 10月第三週 キックオフ：採択者、PM、事務局と顔を合わせ、開発アイデアを練っていきます。
- 10月第四週 アイデアブラッシュアップ：各自が考えてきたアイデアを持ち寄り、PMの助言を受けながら方向性を整えます。
- 11月第三週 初期プロトタイプのレビュー：試作や検討結果を共有し、議論しながら育てます。
- 11月中旬～12月上旬 メンタリング：オンラインで助言を受けながら、プロトタイプを作っていきます。
- 12月中旬 中間報告会：進み具合を参加者同士で共有します。
- 12月下旬～2月中旬 メンタリング：最終報告に向けて、プロトタイプと発表内容を整えていきます。試験期間など学業との両立に配慮して調整します。
- 2027年3月上旬 最終報告会：半年の成果を発表します。

Mentor 伴走するひと



古屋 俊和

ふるや としかず

株式会社テラバース 代表取締役CEO

AI研究者・起業家。データサイエンス分野での起業を経て、AIスタートアップのエクサウィザーズを共同創業し、同社の上場を実現。現在は京都大学との共同研究成果を活用した生成AI・メタバース関連事業を展開。これまで数多くの新規事業やスタートアップの立ち上げに携わり、若手起業家や研究者へのメンタリングにも取り組むなど、技術と事業の両面から挑戦的なプロジェクトを支援。



吉田 達也

よしだ たつや

NTT西日本株式会社

情報工学を専門とし、情報機器開発からキャリアをスタート。その後、スタートアップへのレンタル移籍、子会社立ち上げ、米国MBA留学などを通じて事業開発分野へ活動領域を拡大。直近まではNTT西日本のオープンイノベーション施設 QUINTBRIDGE にて産官学連携・スタートアップ共創による新規事業創出や技術の社会実装を支援。7月からはバリューデザイン部 ソーシャルイノベーション部門 社会基盤ビジネス担当にて大学関連サービス・システム開発に従事。



まずは、
WEBサイトから
エントリー。

応募締切

2026年9月10日（木）17時

ご所属・お名前・メールアドレスだけ。
この時点で応募は確定しません。

主催・運営等

主催：太秦フェスティバル実行委員会
（事務局 京都府 産業振興課）

共催：京都府

運営：文献ラボ株式会社

京都チャレンジプロジェクト事務局

- ・ 応募方法、応募書類、プログラム運営等に関するお問い合わせ
文献ラボ株式会社：contact_bunken@bunken-lab.com
- ・ 事業の内容・制度、その他に関するお問い合わせ
太秦フェスティバル実行委員会（事務局 京都府 産業振興課）：
sangyoshinko@pref.kyoto.lg.jp